

## 【株式相場レポート】

### ～引き続き米国発の続伸～

	6日終値	前週末比
日経平均(円)	20,690.71	+334.43
ドル(円)	112.92-93	+0.47
NYダウ(ドル)	22,775.39	+370.30
長期金利(%)	0.050	-0.012
NY原油(ドル)	50.79	-0.88

※NYダウ・NY原油は5日終値、ドル・長期金利は6日15時現在

### 今週の総括

#### ★先週と攻守交替の反対売買に加え、出遅れ株物色の色合いも

##### 今週のプラス材料

- ・NYダウ史上最高値の更新続く
- ・日銀短観の業況判断DIが各項目ともに高水準

##### 今週のマイナス材料

- ・北朝鮮情勢に加え、スペイン自治州やイラククルド人居住区での住民投票が不安要素として浮上

今週の日経平均は、年初来高値を更新するなど上昇基調が続いた。

米国においてISM景況感指数が事前予想を上回り、ハリケーンの影響も加わり自動車販売が上向いたことや、次回利上げへの期待が高まったことを背景に米国株の上昇が続いた。この流れを受けて日経平均も続伸。為替、原油価格、米長期金利がそれぞれ1ドル112円台、1バレル50ドル近辺、2.3%台で安定して推移したことも下支えとなったほか、北朝鮮情勢で大きな変化が無かったことも安心感につながったとみられる。

業種別でみると、鉄・非鉄が相場をリードしたほか、先週弱かった電力・ガス、不動産、保険、食品などが強めとなり、任天堂の影響が大きい「その他製造業」も高め。一方、先週強めだった資源や商社、化学、建設、運輸などは弱い動きとなった。先週もしくは先月と反対の動きが見られるが、直近1、2ヶ月で出遅れていた銘柄への物色も入っている印象。個別株では日産自動車やジャパンディスプレイなどのニュースがあった銘柄や、防衛関連や有機EL関連などの材料株への物色も目立つ1週間だった。

### 来週以降の見通し

#### ★もうしばらく高値圏で推移か

日経平均想定レンジ **19,500～20,800円**

##### 来週以降の注目材料

- ・米雇用統計(今晚)
- ・小売などの決算発表
- ・欧米の金融政策の行方(期待値の変化)
- ・原油価格動向

##### リスク要因

- ・北朝鮮動向
- ・原油価格と為替市場の乱高下
- ・メガバンク株価のピークアウト

来週の日経平均は、引き続き強めの推移が続く可能性が高そうだ。

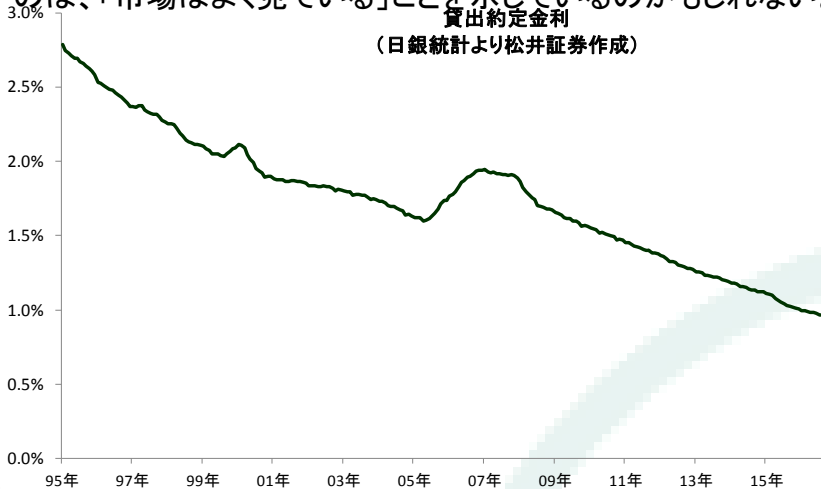
引き続き北朝鮮動向からは目が離せないが、それ以外に特にマイナスにつながりそうな要因も見当たらない。今の相場を支える「堅調な米株価」「米利上げ期待」「堅調な原油価格」についても急変する可能性は低いだろう。特に米利上げについては次回FOMCが11/1とかなり先であり、それまでは期待が株価を支える構図が続きやすい。ニュースは総選挙関連が多いが、過去をみても選挙そのもので株価が動くケースはほとんどなく、自民党が大敗して現在の経済政策に大きな変更の可能性が出る・・・とならない限りは株価材料とはなりにくいとしている。また、企業業績についても、小売を中心とした2月期・8月期決算企業の決算発表が始まっているが、どちらか一方に傾いている訳でなく相場全体の足かせとはなっていないと見られるし、上場企業全体でみれば3月期決算の2Q決算発表が数も多く影響が大きい、本格化するのは10月最終週であり、もう少し先の話となる。「事実」が見える前の「期待」が続く間は、高値が続く展開となるケースが多い。21,000円を超えるような展開は予想しにくい、20,500～800円を中心とした高値圏での推移がもうしばらく続く可能性は高いと予想する。もちろん北朝鮮や原油価格に急変がなければ、という前提だが。

次頁にコラム「徒然なるままに」

## 徒然なるままに

日経平均が年初来高値を更新したが、業種別では大きく差が出ている。日経平均+8.3%に対し、その他製造業+36.6%、非鉄+24.1%、電気機器+23.0%、空運+21.8%、化学+20.9%等が上位陣。一方、電力・ガス-1.8%、不動産-1.5%、証券-4.1%、銀行-0.8%と金融・不動産株の不振が目立つ。原油価格上昇と円安は電力・ガスに厳しいことは分かる。しかし銀行株はマイナスが続くものの、長期金利は今年のマイナスが今年はプラスに浮上、米金利上昇も海外部門や外債運用ではプラスに効くはずだし、日米金利上昇は市場心理的にもプラスのはず。「昨年よりマシ」と思いたくなる。

下のグラフは銀行の貸出金利の変化だ。ゼロ金利を解除した2000年と2006~08年を除くとほぼ一直線に下落が続いている。過去の高利回りの貸出が返済され、低利の新規貸出に置き換わることで平均利回りが低下するが、一気ではなく数年かけて入れ替わるため、このように徐々に金利低下が進むのだ。保有債券も満期到来ごとに入れ替わるため、やはり徐々に利回りが低下する。つまり銀行の収益のかなりの部分を占める円利息収入は今年も、おそらく来年も減少が予想されるのである。増益企業も多くある中、構造的に減収の業種に買いが入りにくいのは当然な気もする。過去には盛り上がったメガバンク株だが、今回は売買代金が低迷する日も多いのは、「市場はよく見ている」ことを示しているのかもしれない。



## リスクおよび手数料等の説明

株式取引は、株価の変動等により損失が生じるおそれがあります。

- 株式取引の委託手数料はインターネット経由の場合1日の約定代金の合計により決定し、100,000円(税抜)が上限です
- 上場有価証券等書面、取引規程、取引ルール等をご覧いただき、内容を十分ご理解のうえ、ご自身の判断と責任によりお申込みください
- 口座基本料は個人の場合には原則無料です  
※各種書面の郵送交付には、年間1,000円(税抜)をご負担いただく場合があります
- 本レポートは、当社が信頼できると判断した情報に基づき記載されていますが、その情報の正確性および完全性を保証するものではありません
- 本レポートは、お客様への情報提供を唯一の目的としたものであり、投資勧誘を目的として作成したものではありません
- 投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします
- 本レポートに掲載された情報の使用による結果について、当社が責任を負うものではありません
- 本レポートに掲載された意見や予測等は、レポート作成時点の判断であり、今後、予告なしに変更されることがあります
- 本レポートの一切の著作権は当社に帰属します。いかなる目的であれ、無断複製または配布等を行わないようお願いいたします

次回発行予定：10月13日(金)17:00以降

業者名等 松井証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第164号  
加入協会名 日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会